



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

2025年問題

連携歯科 科長 丸岡 靖史

日本は世界でも稀に見る急速な高齢化が進行しています。2025年には、3人に1人が65歳以上となります。さらに団塊の世代が75歳以上となり、5人に1人が75歳以上という社会が到来します。国を支えてきた団塊の世代が給付を受ける側に回るため、医療、介護、福祉サービスへの需要がさらに高まり、その対応は大きな課題となっています。

日常生活に制限のない健康寿命は、男性：71.19歳、女性：74.21歳で、平均寿命と健康寿命との差は、男性：9.02歳、女性：12.40歳です。平均寿命と健康寿命との差を短縮することができれば、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保障負担の軽減も期待できます。健康寿命を伸ばすためには何をすれば良いのでしょうか。それには、適度な運動(テクテク)・規則正しい食事によく噛むこと(カミカミ)・心の健康(ニコニコ)・五感を使った感動(ドキドキ・ワクワク)が大事だといわれています。

医科では、メタボリックシンドローム(内臓型脂肪症候群)、最近では2007年に日本整形外科学会がロコモティブシンドローム(運動器症候群：運動器の障害により要介護になるリスクの高い状態になること)を提唱して、メタボ・チェック、ロコモ・チェックを積極的に行い、投薬・生活指導で健康寿命を伸ばす努力がなされています。

歯科では、8020運動を推進し、2012年での達成者は38.3%に達していますが、写真1で示すように多数の歯が残存していても、要介護状態の高齢者では清掃が不十分で、頸部に腫脹の及ぶような歯からの感染症で、病院に搬送される患

者さんも少なくないのが現状です。このような患者さんは、心臓・脳血管・運動器の障害や認知症などの持病をかかえているため、かかりつけ医や看護師と多職種連携をしながら、消炎と原因歯の抜歯を行います(写真2)。そして抜歯後の入れ歯の処置はかかりつけの連携歯科医にバトンタッチします。一方、歯性感染症による誤嚥性肺炎のリスクは高く、従来の医療システムだけでは限界があります。

当院連携歯科は、医系総合大学である昭和大学の特性をいかして、医学部病院や地域医療機関とお互い顔の見える多職種医療連携を推進し、地域包括ケアシステムを構築するために日々頑張っております。



写真1(初診時)



写真2(消炎・抜歯後、連携歯科医にバトンタッチ)

「全身疾患と歯科疾患との関連について」：糖尿病と歯周病

歯周病科 科長 山本 松男

歯周病は成人の大部分が罹患する病気で、歯を失う大きな原因です。歯周病は、「磨き残し」の歯垢＝デンタルプラークが引き起こす炎症によって、知らず知らずのうちに歯を支える骨が溶けてしまう病気です。「毎日気をつけて磨いているから大丈夫」と思いがちですが、歯と同じような色の歯垢を完全に磨ききることは難しく、結果として多くの人が歯周病であると指摘されるという現実につながっています。

一方で、毎日のように耳にする「メタボリック症候群」という言葉。「メタボ、メタボ」と流行語にさえなりましたが、肥満、脂質異常症(高コレステロール血症)、高血糖症(糖尿病)、高血圧などが複合した状態で、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などが起きやすく重症化すると考えられる大変怖い状態です。今回は特に糖尿病との関わりについて書きます。

最近の歯科の話題の一つに、歯周病が糖尿病や心臓血管疾患(心筋梗塞や脳梗塞)とも関係しているというものがあります。歯周病は自覚症状の乏しい病気で、程度にもよりますが、炎症マーカーや歯垢の正体である口腔細菌の病原性成分、場合によっては細菌そのものが全身の血流に入っていく、糖尿病や心臓血管疾患にも影響しているという報告が相次いでいます。いつも炎症があることを慢性炎症といいますが、まさに歯周病は慢性の炎症性の病気です。

糖尿病がある場合では歯周病がひどくなるのが以前より知られていましたが、歯周病が重度の場合には、炎症性の物質(IL-1, TNF- α など)が血液を介して全身に供給されると考えることもできます。それら炎症性物質の影響で糖尿病が治りにくくなる(インスリン抵抗性)ことが考えられるようになってきました。歯周病は糖尿病の原因ではありませんが、進行や重傷度に関係する危険因子(リスクファクター)であると考えられ、糖尿病改善の

ためにも体の慢性炎症性疾患である歯周病は治すのが良い考えられています。また、そのような歯周病と全身の病気との関係について、多くの研究が世界中で行われています。

歯周病は糖尿病の原因ではありませんが、病態改善にブレーキをかけていると思われる症例はしばしば見られます。図は当院に歯科治療を受けに来られた患者さんの、「治療した歯の数(抜歯を含み、歯周病や虫歯治療の数)と血糖値の関係」を示しています。それまでも糖尿病専門医の治療を受けていましたが、慢性炎症である歯周病の治療が進むと、なかなか下がらなかった血糖値が低下していくことが見て取れます。全ての患者さんに当てはまるわけではありませんが、しばしば臨床で遭遇するケースです。

歯周病と全身の病気との関係は、仕組みが完全に解明されたわけではありませんが、歯・口腔という体の一部が健康になることは、全身にとっても良いことであることに間違いはありません。歯科医療はその字の通り歯科の病気を治す仕事ですが、健康な生活を送るためにも役立つことを願っています。

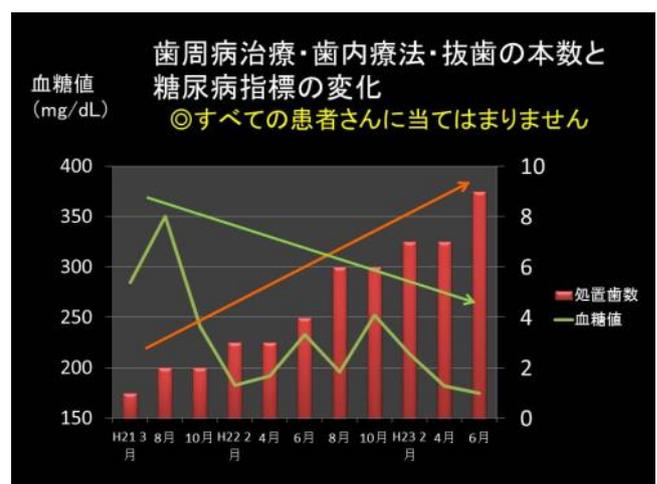


図1: 歯科治療の本数と血糖値

歯周病の治療本数が増えると、血糖値が下がってくる傾向がある。他に、HbA1c値も改善した。※全ての患者さんに当てはまるわけではない。

歯科医療最前線：デジタルシミュレーションを駆使したインプラント治療の1症例

インプラント歯科 助教 横山 紗和子、科長 尾関 雅彦

現在、昭和大学歯科病院で行われるインプラント治療においては、全ての症例で3Dシミュレーションによる診断を行って治療計画を立てています。各症例は、毎週1回行われるカンファレンスにて、インプラントセンターの先生方によって検討され、最適な治療方法を決めます。

インプラント治療を実際に行っていく手順を、一つの症例を例にしてご紹介しましょう。

81歳 男性。長年、奥歯がなくて咬めなかったがそのまま放置しており、心配したお嬢様のご紹介で来院されました。(図1)



図1：初診時のお口の中。
奥歯がなく前歯でしか咬めない状態。

4月：まずはインプラントではなく義歯による治療を希望され入れ歯による治療を開始。

6月：上顎を覆う入れ歯の装着感が悪く、固定性のインプラント治療に移行することを希望されました。

7月：CT撮影と、治療シミュレーションを行いガイドサージェリーを用いたインプラント治療を開始しました。(図2)

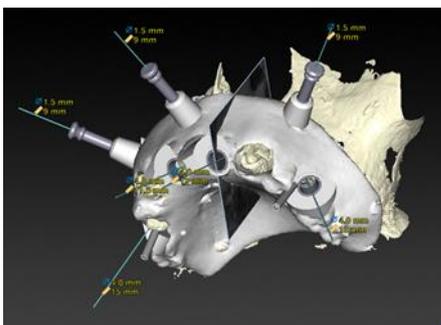


図2：シミュレーションとガイドサージェリー

手術当日に固定性の仮歯まで装着しました。
(図3：所用時間：手術時間約1時間、仮歯製作約1時間)



図3：手術直後に装着した仮歯

11月：最終的な歯を製作するための型取りを行い、咬み合わせの高さを決めたり、歯の並び方を様々に検討し、CAD/CAM技術を利用した歯を製作します。(図4)

(最終的な歯の製作治療回数 約3回)



図4：コンピューターでデザインする最終的な歯

12月：最終的な歯を装着し、治療終了。

清掃・咬み合わせの確認のメンテナンスを継続しています。

インプラント治療では、最終的な歯を製作する際にも、しっかりとしたシミュレーションを行い精度の高い歯を製作することが多くなっています。靭帯に囲まれた天然の歯と異なり、骨にくっついたインプラント同士の動きはとて小さいので、精度の高い最終的な歯を装着して、将来のトラブルを最小限にできるようにしています。

部署紹介 看護部(顎顔面口腔外科・口腔腫瘍外科・総合内科)

顎顔面口腔外科は2階にあります。顎顔面口腔外科歯科医師と共に看護師5名(うち総合内科1名、パート1名)補助者3名、クラーク1名のスタッフで日々業務に励んでいます。

2階の外来には16台の歯科ユニットと麻酔器2台、さらに昨年10月より口腔腫瘍外科が開始され鼻咽腔内視鏡1台が設置されています。外来患者数は1日平均110名程度で、主に抜歯、嚢胞摘出、生検、外傷など観血的処置が多く、時には静脈内鎮静法下での外科処置も行われています。

総合内科は1階臨床病理検査室隣にあり、医師2名と看護師1名で診療を行っています。外来診療だけでなく、既往歴のある入院患者さんの診療・検査、健康診断検査、脈派検査、職員や学生が体調を崩した時の診療、職員・学生の健診やワクチン接種などの対応をしています。

患者さんが安心かつ安全第一に治療が受けられるように、私たちスタッフは連携を取り、一貫した治療が提供できればと思っています。

チーム医療のスタッフとして専門的知識や技術の向上を図り、質の高い看護の提供を目指し、今後も努力していきますので宜しくお願い致します。

看護部 大友美子



第6回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会報告

第6回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が、平成27年2月4日(水)午後8時00分から、昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂において、昭和大学歯科病院 口腔腫瘍外科 教授嶋根 俊和先生に「頭頸部癌診療における医科と歯科の連携」についての講演を行いました。

城南地域の歯科医師会の先生方を含め75名の受講者がありました。

平成27年度に於いても、2回の講習会を予定しています。

事務課



編集後記

連携歯科科長 丸岡 靖史先生の巻頭言「2025年問題」、歯周病科科長 山本 松男先生の「全身疾患と歯科疾患との関連について」においてもメタボリック症候群が取り上げられています。私は暴飲暴食のせいで1年間になんと5kg以上増量し、BMI(体格指数 体重(kg)を身長(m)の二乗で割った値:25以上が肥満)はなんと28越えに。大減量を覚悟しました。経過については時々ご報告致します。

(K.T)

